

(新) 国立・国定公園総点検事業費

49百万円(0百万円)

自然環境局国立公園課

1. 事業の概要

科学的データを収集し、風景地保護に加えて生物多様性保全の観点より、全国の国立・国定公園の再評価を行い、全国的な価値を有する地域を国立・国定公園に編入するなど、指定状況等の総点検を行う。

専門家からなる検討会を設け、全国の国立・国定公園について風景、生物多様性、公園利用等の観点から再評価を実施。

生物多様性関連のデータを収集するため、特に公園の核心地域での生物の生息情報を現地調査により把握する。

各種情報をGIS処理し、ふさわしい公園区域や公園計画の案を明らかにする。

2. 事業計画

平成19年度	調査の枠組み設計 国立公園の生物多様性・景観調査(データ解析・現地調査)
平成20年度	国定公園の生物多様性・景観調査(データ解析・現地調査)
平成21年度	国立・国定公園利用調査、公園の再評価
平成22年度	国立公園の再配置
平成23年度	国定公園の再配置

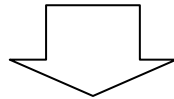
3. 施策の効果

収集した科学的データに基づいて、83の国立・国定公園の全ての地域について総点検を実施し、その指定区域や公園計画の見直しを実施。国のレベルで、本当に保護管理すべき地域の抽出を行う。

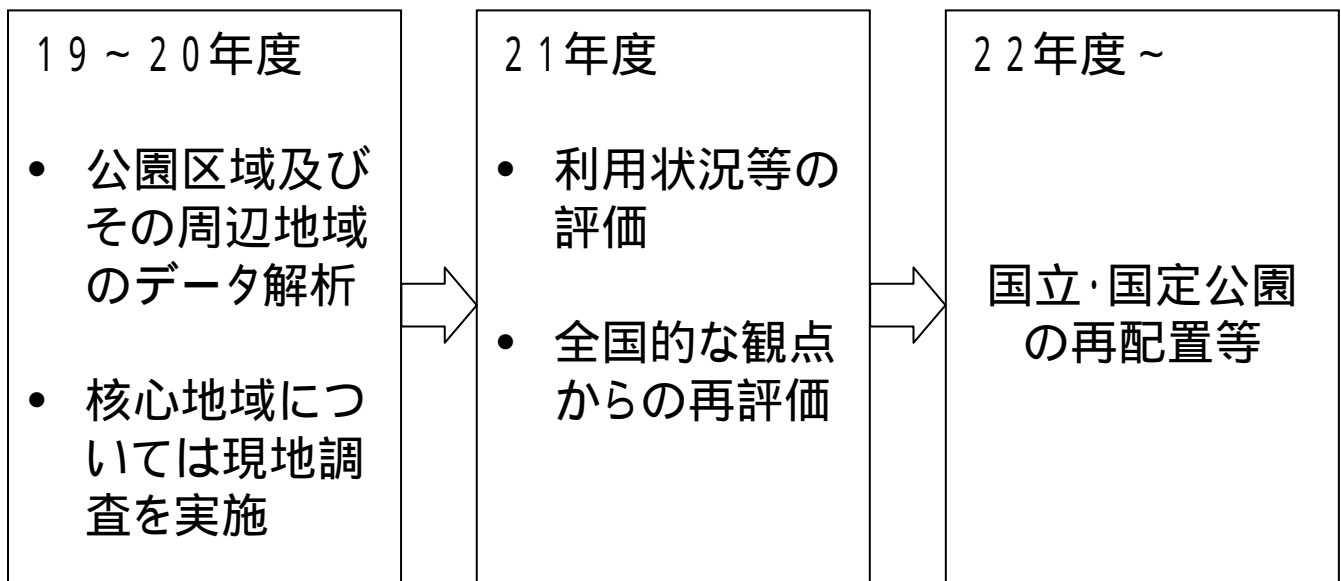
公園区域の見直しと科学的データの集積を行うことにより、地域の合意形成を促進し、多様な関係者の参画を得て管理を推進する。

国立・国定公園総点検

- 自然公園法制定から50年、国立公園法制定から75年
- 新・生物多様性国家戦略
『生物多様性の視点から既存の保護地域制度を捉え直し、制度の強化、指定の拡充、科学的データに基づく管理の充実、保護地域間の連携確保など、保護地域制度がより効果的に機能するために必要な取り組みを進める。』



指定状況等の総点検が必要



施策の効果

全国的な効果
公園ごとの効果

生物多様性上重要な地域を適切に保護する。公園区域の見直しと科学的データの集積を行うことにより、地域の合意形成を促進し、多様な関係者の参画を得て管理を推進する。